佐賀市議会定例会議案説明

（令和５年２月２８日）

本日、令和５年２月定例会の開会に当たり、市政運営に取り組む私の所信の一端を申し述べますとともに、提案いたしました諸議案について、その概要をご説明申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、発生から３年余りが経ち、今年５月には２類から５類に分類が見直されるなど、対策が大幅に緩和されることになっております。まだまだ油断することはできませんが、本格的なウィズコロナの時代に入ってまいります。

そのため、新しい地域経済の循環がこれからのテーマになるとともに、この間の社会情勢の変化、例えば、デジタル化の進展や新しい生活様式の定着、価値観の変化などに対応した、新たな時代の市政運営が重要になるものと認識しております。

そのような中、市民の暮らしにおいては、昨今の急激な物価高騰によって市民生活や企業経営に大きな影響が及んでおります。また、本市が誇る有明海のノリ養殖に深刻な色落ち被害が発生するなど、緊急的な対応が必要となる事態が発生しております。

政策面においては、佐賀空港の自衛隊使用要請につきまして、慎重に検討を重ねた結果、苦渋の思いではありますが、受入れがやむを得ないと判断いたしました。今後も引き続き、防衛省に対し、懸念への真摯な対応、安全対策、環境への十分な配慮、漁業・農業等へ配慮した万全の措置、生活環境等の整備、地域社会

との調和、相談・協議体制の構築など、しっかりと求めてまいります。
　また、本市が目指す中核市への移行についての検討など、本市のまちづくりに大きく影響を与える重要案件も数多くございます。

　さらに、財政運営面においては、高齢化の進行などに伴い、社会保障関係経費が年々増加していく中で､限りある財源を“今”と、そして、“未来”に向けて投資していくことが大切であると考えております。

　私は、市政のスローガンとして「動きます、佐賀市。」を掲げております。職員一丸となって佐賀市の未来を創るために、困難な課題に直面しても積極的に知恵を出すことを意識してまいりました。

　例えば、スマートシティの推進といたしましては、今年度をスタートアップ期と位置付け、様々な検討を進める中で、若手職員を中心に積極的にいくつもの提案をしてくれました。これらの提案があったからこそ、多くのデジタルサービスについて実装に向けた準備が整い、来年度からスマートシティの推進を本格化することができます。

　これからも積極的に知恵を出し、積極的に取組を進め、佐賀市政は｢常に挑戦しつづけることで､常に価値を生みだす市政｣でありたいと考えております。
　経済的な価値だけでなく、市民の幸福度や体験の豊かさなどといった心の価値も含めた「リッチ」さや、佐賀市らしい豊かな暮らしを市民の皆様が実感できるまち。今ある佐賀市の魅力

を大切にしながら、そこに新しい技術や発想を次々と取り入れることで、「リッチ・ローカル　佐賀市」を実現できるよう、これからの市政に臨んでまいります。

以上のことを踏まえ、令和５年度当初予算をはじめとした諸議案の御審議をお願いするに当たり、令和５年度において特に重点的に取り組む内容につきまして、御説明申し上げます。

「リッチ・ローカル　佐賀市」の実現を目指し、令和５年度のチャレンジとして、「３つの『新しい』を実行する」を掲げております。

１つ目は、「新しい“暮らし”を構想する」
２つ目は、「新しい“人”を巻き込む」
３つ目は、「新しい“体験”を創る」
でございます。

その上で、令和５年度の当初予算のポイントを、限られた財源を有効に活用し、佐賀市の未来を市民の皆様と共に創る“共創”するための、「未来共創」予算としました。

チャレンジの１つ目、「新しい“暮らし”を構想する」です。

防災や福祉、地域や子育てなど、日々の“暮らし”における様々な分野において、市民の皆様の目線に立った発想で、これまで重点的に進めてきた情報発信の強化やＤＸの推進を図りながら、安全・安心で快適な「新しい“暮らし”」の実現を目指します。

まず、佐賀市公式スーパーアプリで暮らしを便利にしてまい

ります。

来月末にプレリリースを予定している佐賀市公式スーパーアプリについては、機能を更に拡張し、市民、企業、地域が一緒になって「みんなで創るスーパーアプリ」を目指します。

具体的には、アプリ内にミニアプリ機能を搭載し、市民の皆様がコミュニティ等で使えたり、企業の皆様が様々なサービスの提供に活用したりすることができる仕組みを作ります。

また、全国で使うことができる民間アプリ等と連携することで、利便性を高めてまいります。

次に、最新技術等を活用しながら防災に取り組み、暮らしの安全を高めてまいります。

「災害を防ぐ」という点においては、今年度に開始した田んぼダムの取組を更に進め、貯留機能を強化いたします。農家の皆様のご協力をいただきながら、来年度には、現状の１７６ヘクタールから約３００ヘクタールまで拡大することを目指します。

また、災害発生時においては、円滑かつ迅速な情報収集や情報共有を図るため、新たな取組として「災害情報投稿プラットフォーム」の整備に着手してまいります。これは、市民の皆様からスマートフォンで災害情報を投稿いただくもので、これにより、一目で災害の状況と場所を把握できるようになり、迅速な災害対応や情報配信につなげることが可能となります。

さらに、災害復旧時においては、災害発生箇所をスマートフォンで測量する三次元測量システムを導入いたします。これまで手作業で現場測量していたものが、システムの導入によって少人数かつ短時間で測量することができ、より効率的で、より迅速な復旧につながるものと期待しております。

次に、先進モビリティを導入して近未来な都市を目指してまいります。

近年、技術の進展によって様々なモビリティの開発が急速に進み、移動の利便性向上や新たな移動手段として、実用化に向けた動きが加速しています。そこで、新たに先進モビリティの実証実験や調査・研究に取り組んでまいります。

まず、ＳＡＧＡ２０２４国スポ・全障スポを見据えて、今年の秋頃に佐賀駅とＳＡＧＡアリーナ間のサンライズストリートで自動運転バスの実証実験を行います。

また、電動キックボードやグリーンスローモビリティなどといったニューモビリティについて、市民の皆様や観光客の皆様が手軽でスムーズに移動できるよう、導入に向けた調査を実施してまいります。

次に、ＩＣＴを活用した「見守りサービス」を導入して、子どもと高齢者を見守る地域を実現してまいります。

１５周年を迎えた、市民総参加で子どもを育む「子どもへのまなざし運動」は、本市が誇る素晴らしい取組です。現在、交通安全指導員や教職員、ＰＴＡなど多くの皆様が子どもの見守りにご尽力いただいております。これにデジタルの力を加えて、見守り活動を強化してまいります。

この新しい見守りの取組は、今年５月から一部の学校で先行導入し、順次、対象校を拡大していくとともに、将来的には、高齢者の見守りにも広げてまいりたいと考えております。

次に、子育て支援につきましては、３つの視点をもとに保護者の負担を減らすことで、子どもと向き合う時間を多く持てるような、子育てにゆとりのあるまちを目指します。

１つ目は、「家計に“ゆとり”」です。

妊娠時に５万円、出産後に５万円、合計１０万円の給付金を支給いたします。また、住民税非課税世帯等の初回産科受診料の助成にも新たに取り組んでまいります。

２つ目は、「時間と気持ちに“ゆとり”」です。

一時保育の受入れについて、余裕活用型を新設するなど、受入れ環境を整備いたします。あわせて、児童がショートステイ等を安定して利用できる体制の確保を図り、育児疲れのレスパイトケアを充実します。

また、コロナ禍などで親同士のつながりが希薄になっています。私は、子育てサークル連絡会の皆様と意見交換を行った際、親同士がつながることの大切さを再認識いたしました。そのため、市として親同士がつながることができるような活動を支援し、子育ての仲間づくりを後押しします。

そして、３つ目は、「保育活動に“ゆとり”」です。

小学４年生以上の受入れが可能な児童クラブは、現在８校区ありますが、受入れ校区の倍増を目指します。また、保育士を確保するために実施している就職支援金と家賃補助にも引き続き力を入れてまいります。

次に、学校教育につきましては、不登校や障がい等で支援を必要とする子どもたちが安心できる、誰一人取り残さない学習環境づくりを進めます。

全国的な傾向と同様に、本市でも不登校の子どもや、特別支援学級の在籍者、通常の学級でも発達障がいの子どもなど、支援が必要な児童生徒が増えております。

来年度においては、この支援の更なる充実を図ってまいります。

まず、不登校傾向の子どもたちへの支援として、これまでの学校内外での居場所づくりに加えて、オンラインで学校の活動

に参加したり、学校の様子を視聴したりすることができるよう、インターネット環境のない子どもたちにモバイルＷｉ－Ｆｉの貸し出しを新たに行います。

また、特別支援学級や通常の学級において支援を要する子どもたちに対して、学習や生活を支援する支援員を総勢１２７名まで増員し、子どもたちが安心して、楽しく学校生活を送ることができるようにしてまいります。

次に、温室効果ガスの排出量を２０５０年までに実質ゼロとする「ゼロカーボンシティさがし」を目指します。

市民や事業者の皆様にも、できることから行動を始めていただくことが重要です。交通分野では、電気自動車や水素自動車の導入、電気自動車の充電設備の設置などに対する補助制度を、また、家庭や事業所には、エネルギー消費の少ない建物の新設、太陽光発電設備や蓄電池の導入などに対する補助制度を新たに創設し、ＣＯ２の排出量削減につながる取組を支援してまいります。

この制度をきっかけとして、市民の皆様の脱炭素に向けた取組を広げ、持続可能なまちづくりに向けて前進してまいります。

次に、スマート農業の推進に取り組みます。

農業は、従事者の減少・高齢化が課題であるため、先端技術を活用し効率的な農作業を可能とするスマート農業を３つの視点から推進し、農業経営の安定・強化と、担い手の育成・確保を図ってまいります。

１つ目は、「学び」です。スマート農業の導入事例や効果などを紹介する研修会を開催いたします。

２つ目は、「体験」です。スマート農業の効果を実感してもらうため、先端技術を活用した農業機器を貸し出し、効果や改

善点などを明らかにしていく実証実験を行います。
　３つ目は、「実践」です。ドローンなどの機器導入に補助を行います。また、電波の弱い中山間地域においては、通信環境の整備に対する支援策を新たに設け、ドローン飛行を可能とすることで、ほ場が狭い中山間地域での農作業の効率化につなげてまいります。

　次に、公共施設の再編です。市民の皆様が地域活動をしやすい環境づくりを進めます。
　久保田地区では、住民の皆様が主催する「久保田将来計画検討会」において、市も一緒に「久保田の将来像」を描きました。この中で、住民の皆様が地域活動しやすい環境整備の一環として、佐賀市久保田農村環境改善センターを複合化施設に改修し、近隣施設を集約することで、幅広い世代の住民が交流しやすく、地域に愛される施設へと再編いたします。

　次に、総合計画と都市計画マスタープランを策定します。
　１０年ぶりの新計画となる「佐賀市総合計画」、約２０年ぶりの新計画となる「佐賀市都市計画マスタープラン」について、市政の根幹となるこれらの計画策定に時を同じくして着手し、市民の皆様とともに、本市の新しい姿、将来ビジョンをしっかりと描きたいと考えております。

　チャレンジの２つ目は「新しい“人”を巻き込む」でございます。

　これまで、本市は市民や来訪者が心地よく過ごせる空間づくりを目指して、佐賀駅周辺整備などを進めてまいりました。そして、今年の５月１３日にはＳＡＧＡアリーナがいよいよオー

プンします。市内に新たなランドマークが誕生し、佐賀市文化会館と機能的に連動することで、これから多くの方がコンサートやスポーツ、学会などで本市を訪れることとなります。

これは、官民問わず、本市に大きな賑わいが生まれる転機であり、先日、意見交換を行った若手経済人の皆様も大きな期待を抱いておられました。

そして、５０年に一度のビッグイベントであるＳＡＧＡ２０２４国スポ・全障スポの開催まで、いよいよあと１年です。来年度は、佐賀市富士しゃくなげ湖水上競技場で行われる高校生のカヌー競技の九州大会を始めとし、年間を通してリハーサル大会を開催いたします。

そのため、本市の魅力やポテンシャルを高めることで、これまで本市に来たことがない人を含め、多くの“人”を巻き込み、まちの活性化につなげてまいります。

まず、ＳＡＧＡアリーナ来訪者に利便性の良さ、心地良さを感じていただけるような取組を進めます。

１点目として、バスの利便性向上を図ります。市営バスの運行内容を見直し、佐賀駅バスセンターからアリーナへのアクセスを強化します。また、街なかからバスを利用してもらうことで、街なかの賑わいづくりと来訪者の利便性向上を図ります。これにより、混雑が予想されるアリーナ周辺ではなく、佐賀駅や街なかからアリーナへ向かう人の流れを創出します。

２点目として、サンライズストリートの整備にも引き続き取り組んでまいります。歩道を拡幅するとともに、道路沿線の３か所にポケットパーク等を設け、歩きやすい空間を創出してまいります。

次に、ＳＡＧＡアリーナ来訪者の市内への回遊を促してまい

ります。

街なかや観光施設を楽しみながら巡る仕掛けとして、アリーナ来訪者への特別クーポンを発行し、魅力的なスポットを巡ってもらい「佐賀に来てよかった、また来たい」と思ってもらえるきっかけを作ります。

また、事業者の皆様とアリーナオープンによる効果を共有していくため、街なか店舗との連携・協力体制を構築し、アリーナのイベントとのタイアップや、来訪者への独自サービスの実施を促してまいります。

この他にも、バス１日乗車券の発行、周遊タクシーの運行や宿泊プランづくりの支援、アリーナや佐賀駅周辺で積極的に情報発信を行うなど、官民一体となって、市全体で経済活性化に向けた受入れ態勢を整えてまいります。

次に、ＳＡＧＡ２０２４国スポのリハーサル大会を開催します。

来年度は、ＳＡＧＡ２０２４国スポのリハーサル大会として、１１競技、１３種目の競技別大会を、年間を通して実施いたします。県内のすばらしいアスリートの活躍にも大いに期待しております。

迎える立場として、翌年の本大会に向けて運営力の向上を図るのはもちろんのこと、市民の皆様に大会への興味、関心を持っていただけるよう、大会の様々な情報を発信していきます。

また、リハーサル大会には、県外からも選手や監督、大会関係者、観客、マスコミなど多くの方が来られ佐賀が注目されます。単にスポーツ大会として終わらせるのではなく、佐賀市を知ってもらい、楽しんでもらうチャンスと捉えております。

そこで、大会参加者への「おもてなし」に積極的に取り組み、魅力の発信に努め、佐賀市のファンづくりを進めてまいります。

次に、中山間地域の“さがぐらし”を進めます。

北部の中山間地域は、人口減少が進む一方で、山ならではの豊かな暮らしに惹かれて移住を考える方がおられます。

移住を考える上では「住居」がハードルのひとつとなりますが、空き家があるにもかかわらず、物件として流通していないという現状がございました。しかし近年は、地域の協力や集落支援員の活動によって、空き家バンクの新規登録物件数が増加してきており、良い流れが出来つつありますので、この取組を更に進めてまいります。

次に、佐賀インターナショナルバルーンフェスタを全国区の佐賀市ブランドにいたします。

本市の一大イベントであるバルーンフェスタは、北部九州を中心に多くの来訪者があり、今後はさらに、全国にこの魅力を発信していく必要があると考えております。

そこで、来年度は首都圏を中心としたプロモーションを行い、「バルーンといえば佐賀市」というブランドを全国的なものとして確立し、本市のイメージアップ、そして、更なる観光誘客などにつなげてまいります。

次に、物流拠点構想の実現に向けた検討に取り組みます。

南部地域には、昨年１１月に諸富インターチェンジが開通した有明海沿岸道路に加え、九州佐賀国際空港もあり、交通インフラが整ってきております。この交通ネットワークを活用した物流拠点構想の具体的な可能性について調査してまいります。

来年度は、学識経験者、物流関係事業者等で構成される外部委員会を設置して、幅広い意見等をいただき、令和６年度の構想策定を目指したいと考えております。

最後に、チャレンジの３つ目「新しい“体験”を創る」でございます。

本市には、たくさんの施設やイベントなどがございます。既存の施設やイベント、また、今後誕生する施設やイベント、そのどちらについても、「モノや場をつくる」という発想にとどまらず、「訪れる方の体験を豊かにする」という発想で、今までにない新しい“体験”を創ってまいります。

まず、既存の施設を新しい“体験”の場に、生まれ変わるよう検討を進めてまいります。

１つ目は、これから大規模な改修を控えている佐賀市立図書館です。「ＳＡＧＡ　ＬＩＢＲＡＲＹ　ＰＡＲＫ」というコンセプトのもと、図書館でありながら、公園のように気楽に自由に楽しめる場所を目指します。
スケジュールとしては、来年度に基本構想・基本計画を策定し、開館３０周年を迎える令和８年度のリニューアルオープンを目指してまいります。

２つ目は、今年、鍋島家から寄贈を受けて１００年を迎える神野公園です。この１００年を区切りとして、市民の皆様が更にわくわくするような、親しみのある公園の在り方を考えてまいります。「自然・環境、遊び、食、運動・健康、教育、文化、季節」の７つの体験に視点を置き、新たな姿を検討し、来年度に基本構想を策定いたします。

３つ目に、時代の変遷とともに、求められる役割が変わって

きている公民館です。少子高齢化が進む中、誰もが暮らしやすい地域にしていくために、公民館は、地域コミュニティ活動の拠点としての機能を更に高めることが求められています。これまでの機能を大事にしながら、検討会を設置して幅広い意見をいただき、今後の在り方を模索してまいります。

次に、中学生が生きた英語に触れる機会を提供してまいります。

グローバル化が進む中、子どもたちの外国語によるコミュニケーション能力を育成し、国際理解を深めるには、多様で豊かな経験を広げていくことが大切です。

そこで、中学１年生の英語学習に、１人１台の端末を活用し、海外在住の外国人講師とオンラインで学習する機会を設けます。来年度は、２つの中学校で先行して取り組んでまいります。

次に、学校と地域が連携した部活動を目指してまいります。

生徒数の減少に伴い、部員不足となり廃部や休部の危機に直面している部活動があったり、学校に希望する部活動がないために他の部活動をしている生徒がいたりする現状がございます。

そこで、生徒たちのニーズに適った活動ができるよう、まずは休日の部活動の地域移行を検討いたします。将来的には、現在、部活動として取り組んでいない活動もできるよう、多様なスポーツや文化活動に触れ合う機会の創出を目指します。

来年度は、一部の部活動でモデル的に先行実施し、令和８年度までに中学校における休日の部活動を地域に移行することを目指してまいります。

次に、佐賀バルーナーズと新しい“非日常”を創ります。

来年度、ＳＡＧＡアリーナにホームを移す佐賀バルーナーズ

を、いままで以上に多くの方に観戦いただき、これまでに味わったことのない非日常を楽しみ、チームを盛り上げていただきたいと考えております。

そこで、まずはチームをより身近に感じていただけるような取組や、みんなで応援いただけるような取組を実施します。プロスポーツをきっかけに、市民の皆様と一体となってまちを盛り上げたいと考えております。

以上、新年度の主な取組と、施政に対する私の所信を申し述べました。

我が国においては少子高齢化が進行しております。本市においても、昨年、市の人口ビジョンの推計より４年ほど早く、人口が２３万人を割りました。

このような状況において、大切なことは、未来志向で考えること、未来志向でチャレンジすることだと私は考えます。

経済的な価値だけではなく、幸福度や体験の豊かさなど、心の価値も大事にしながら、市民の皆様が暮らしの中で豊かさを体感できる「リッチ・ローカル　佐賀市」を実現したいと考えております。

そのためには、常に挑戦しつづけることで、常に価値を生み出すことが大切であり、令和５年度のチャレンジとして、“暮らし”、“人”、“体験”の、「３つの『新しい』を実行する」ことにより、佐賀市の未来を“共創”してまいります。

市政の発展のために職員一丸となって全力で取り組んでまいりますので、議員及び市民の皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

＊　　＊

それでは、令和５年度の予算議案について御説明申し上げます。

令和５年度における国の地方財政への基本的な考え方といたしましては、社会保障関係経費の増加が見込まれる中、地方が地域社会のデジタル化や脱炭素化の推進など様々な行政課題に対応しつつ、行政サービスを安定的に提供できるよう、地方の安定的な財政運営に必要となる一般財源総額について、前年度と同水準を確保することとされております。

また、経済状況につきましては、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつある中、緩やかな持ち直しが続いております。その一方で、原材料価格の上昇や円安の影響等によるエネルギーや食料価格の高騰など、地域経済を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

このようなことから、健全な財政運営に配慮しつつ、限られた財源を最大限に活用し、佐賀市の未来を“共創”するため、「３つの『新しい』を実行すること」を始めとして、市民の皆様が豊かさを実感できるまちづくりに資する予算編成を講じたところであります。

この結果、当初予算案の規模を、
・一般会計　１，０４６億円
・特別会計　約３０４億円
・企業会計　約２５６億円
としております。

第１号議案「一般会計予算」は、昨年度の当初予算と比べ、

約６億円、０．６％の増となります。

まず、主な歳出についてでございます。

義務的経費であります人件費につきましては、定年年齢の段階的な引上げのため、定年退職による退職手当を計上しないこと等により、約８億円、５．３％の減となる約１４９億円を計上いたしております。

また、扶助費につきましては、障がい者の介護給付費や障害児通所支援事業等の伸びにより、約３億円、０．９％の増となる約３１０億円を計上いたしております。

また、投資的経費につきましては、公立認定こども園整備事業、建築物耐震対策事業、川副中央幹線道路整備事業、光法団地建替事業など、約１０７億円を計上いたしております。

次に、主な歳入についてでございます。

市税につきましては、企業の賃上げ等による雇用情勢の変化を踏まえ、個人市民税の増収を見込んでおります。
また、家屋の新増築等の増により、固定資産税の増収も見込まれることから、全体として約９億円、３．０％増の約３１９億円を計上いたしております。

その他の主な財源といたしましては、国・県支出金として約２９３億円、地方交付税として１７６億円、市債として約６８億円を計上いたしております。

なお、一般会計の細部並びに特別会計及び企業会計につきましては、予算に関する説明書及び関係資料により御審議をお願いいたします。

＊　　＊

次に、令和４年度補正予算議案について、御説明申し上げます。

第１０号議案「一般会計補正予算（第１０号）」は、緊急な措置を要する事業の経費のほか、国の予算措置に呼応した事業や決算見込み等による補正措置などにより、約１億２，６００万円の減額を行っており、補正後の予算総額は、約１，１２０億７，１００万円となっております。

以下、補正予算の主な内容を御説明申し上げます。

まず、プレミアム付地域振興券発行事業でありますが、

○　この事業は、市内における消費需要を喚起し、エネルギーや食料価格の高騰に直面する事業者の事業活動や市民生活の支援を行い、消費の下支えを通じた地域経済の立て直しを図るため、市内登録店で利用できるプレミアム付地域振興券を発行するものであります。

次に、ノリ養殖漁場改善緊急対策事業でありますが、

○　この事業は、ノリ養殖漁業の深刻な不振により経営に大きな影響を受けているノリ養殖漁業者を支援するため、漁場の

栄養塩低下対策として実施する栄養塩添加に要する経費の一部を補助するものであります。

これらの財源といたしましては、地方消費税交付金、地方交付税、国・県支出金等で措置し、繰入金により収支の調整をいたしております。

また、繰越明許費として、５７事業の追加及び７事業の変更を措置いたしております。

なお、一般会計の細部並びに特別会計及び企業会計につきましては、予算に関する説明書及び関係資料により御審議をお願いいたします。

＊　　＊

最後に、条例議案について、御説明申し上げます。

第２０号議案「佐賀市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例」は、行政運営の簡素化や効率化を図り、もって市民生活の向上に寄与するため、条例や規則において書面等により行うこととされている手続等のオンライン化に必要な事項を定めるものであります。

第２１号議案「佐賀市手話言語の普及及び障がいの特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」は、全ての市民が、障がいの有無にかかわらず、互いに尊重し合い、いきいきと生活する地域社会を実現するため、手話言語の普及及び障がいの特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促

進に関する基本理念を定め、市の責務や市民及び事業者の役割を明らかにするとともに施策の推進方針を定めるものであります。

第２３号議案「佐賀市事務分掌条例の一部を改正する条例」は、まちづくりに関連する施策を総合的かつ効果的に推進するため、「都市戦略部」の新設等を行うものであります。

その他の議案につきましては、それぞれ議案の末尾に提案理由を略記いたしておりますので、それにより御承知をしていただきたいと思います。

以上、よろしく御審議をお願い申し上げます。